

★デンタル撮影時の注意事項 西山 (阪大版改変 2013, フィルムは IP に読替のこと)

1. 患者の誘導
患者の確認 (氏名、ID、生年月日等)。
椅子に座らせる。
防護エプロンをつける。
眼鏡、義歯などはずしてもらう。
撮影部位の確認。
2. 頭部の位置づけ
ヘッドレストの高さを合わせる。
正中矢状面を床面に対して【垂直】にする。
撮る側の咬合平面を床面に【平行】にする。
目安 上顎：【カンペル】平面 (鼻聴道線)、下顎：【口角耳珠】線
3. タイマーを合わせる。(フィルム保持時間を短くするために最初に合わせておく)
取る部位でもっとも照射量の多い部位にあわせる。
小白歯・大白歯を含む場合、大白歯にあわせる。
上下顎大白歯の場合 (咬翼) 上顎大白歯にあわせる。
4. フィルムの位置づけ。
 - 1) 裏表の確認。
自分が管球になったつもりでフィルムを持つと間違えない。
 - 2) 撮りたい歯をフィルム内にいれる。
撮る側に立って歯とフィルムとの関係を目で確認すること。
撮りたい歯の前後の歯をフィルムに入れるようにする。
 - 3) 咬合平面からフィルムの端が均等に約 3mm~5mm 位出るように入れる。
 - 4) 指でフィルムを押しさえさせる。(撮る側と【反対】側の指)
フィルムを曲げない。
原則として上顎は【拇指 (親指)】、下顎は【示指 (人差し指)】。
押しさえさせるところは、舌側咬頭頂付近、近遠心的には中央。
指で押しさえさせてからはあまりフィルムを動かさない。
→ 粘膜面をこすらない。
動かす時には押しさえしている指を少し離してもらう。

★部位毎の入れ方の注意点

- 全顎撮影では犬歯と小白歯を 1 枚でとる方法 (10 枚法) と分ける方法 (14 枚法) がある。原則、小白歯に犬歯を入れる場合は縦、大白歯を入れる場合は横にする。犬歯・小白歯までは【縦】、大白歯が一本でも入れば【横】
- 上顎前歯部：フィルムは【縦】
- 上顎犬歯～小白歯部：フィルムは【縦】。犬歯の歯根に注意
フィルムに入れ方には 2 通りある。
フィルム遠心側が咬合平面から出る場合、フィルムの端と咬合平面との角度は、【30】°以内になるように注意。角度が強くなる分、フィルムを近心に移動し、偏近心投影の投影角度を強くしなければならない。(別紙)
- 上顎大白歯部：フィルムは横。スピーの彎曲に注意、軟口蓋に押されるので注意。
- 下顎ではフィルムを【舌】の下に入れる。
- 下顎前歯部：フィルムは縦。舌小帯を軽く押す感じ。
狭窄、鞍状歯列弓などの場合、フィルムが歯の上に乗る場合がある。

下顎犬歯～小白歯部：

フィルムは縦。舌下部の深いところを探って、舌小帯を少し押すように入れる。口腔底が浅い場合、舌小帯を越えて、反対側の歯頸部にフィルムの端を付けるようにしなければ入らないことがある。
フィルムの端が咬合平面よりも 1cm 以上出ないように注意する。

下顎大白歯部：

最初斜めに第 1 大白歯付近からいれて、すくい上げるように奥へ進める力を抜かせる。それでも浮いてくる場合には、

- 1) 舌側へフィルムを傾斜させる。
- 2) 押しさえしている指を咬む程度までゆっくりと閉じさせる。
→ 顎舌骨筋の緊張を取る。

5. 管球の位置づけ (3 個 <---> 3 次元)

以下の順で行うと位置づけしやすい

1) 垂直的な角度：【二等分】法 --- 上顎が難しい。

目安：三角定規の 3 つの角度で覚える

上顎前歯部：約【60】° <--- 教科書では約 55°

上顎小白歯部：約【45】°

上顎大白歯部：約【30】°

下顎前歯から小白歯は挿入状態によって角度が大きく異なる。

上下顎とも前方から後方に行くに従い角度は緩くなる。

2) 水平的な角度：【正放線】投影

隣接する歯が重ならないようにする。

3) 射入点 (照射野) の位置づけ (平行移動)

照射筒の延長線内にフィルムをいれること。

★必ずフィルムの一部を視認して盲目的に狙わないこと。

6. 撮影

スイッチを押す直前に患者が動いていないことを確認する。

スイッチはブザーないしランプが消えるまで押し続ける。

7. 複数枚数の撮影時

フィルムを取り除いた後、管球を患者に向けたままにしないで別方向を向かせる。

8. フィルム及び手指の消毒

ここでの操作では、唾液の付いた手指で他の部位を汚染しないよう心がける。

サリバックを外し、汚染されていないフィルムを介助者が受け取る。

ないし、清潔なトレーに落とす。

9. 患者を部屋の外に出す

10. 撮影機器、ドアノブ、手指 (ないし手袋) の消毒。

11. 現像 (IP の場合、読み取り装置への挿入)

自動現像機。(IP の場合、レーザーによるスキャンと消去)

注意：複数のフィルムを急いで流さない。(IP の場合、挿入手順を確実にする)

→フィルムが重なり現像ミスとなる。→再撮影!! (IP の場合、操作ミスに注意)

12. フィルムのマウント

フィルムを持つときは、表面をベタベタ触らない。(IP の場合、傷つけない)

なるべくフィルムの角・端を持つように。

フィルムの表裏・上下を間違えないこと。